

1. 略歴

- 2002年3月 東京大学文学部歴史文化学科考古学専修課程卒業
2002年4月 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 期限付調査員（～2003年3月）
2003年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻考古学専門分野修士課程入学
2005年4月 明治大学校地内遺跡調査団 短期嘱託職員（～2006年3月）
2006年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻考古学専門分野修士課程修了
2006年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻考古学専門分野博士課程進学
2006年4月 日本学術振興会 特別研究員（DC1）（東京大学大学院人文社会系研究科）（～2009年3月）
2010年3月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻考古学専門分野博士課程単位取得満期退学
2010年4月 青森県教育庁文化財保護課 文化財保護主事（～2014年8月）
2010年12月 東京大学大学院人文社会系研究科・博士（文学）授与
2014年9月 国際教養大学地域環境研究センター 助教（～2015年3月）
2015年4月 国際教養大学アジア地域研究連携機構・国際教養学部 助教（～2019年3月）
2019年4月 国際教養大学アジア地域研究連携機構・国際教養学部 准教授
2021年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

先史考古学（縄文・弥生時代）、民族考古学

b 研究課題

- (1) 縄文時代から弥生時代への移行に関する総合的研究
- (2) 新石器化・社会複雑化に関する考古学的研究
- (3) 土器製作伝統と生業形態に関する民族考古学的研究

c 概要と自己評価

上記の研究課題(1)に関連して、2018年度から科研費・若手研究「紀元前一千年紀前半の気候変動期における縄文晩期社会システムの変容プロセス」(2018～2020年度)プロジェクトに取り組んできた。秋田県内における縄文晩期の集落遺跡の発掘調査を実施し、研究成果を2021年3月に報告書として刊行した。また2019年度から三菱財団人文科学研究助成「縄文／弥生移行期の低湿地遺跡から復元する環境変動適応史」(2019年～2020年度)プロジェクトを開始し、低湿地環境に所在する縄文後・晩期の遺跡のポーリング調査と年代測定の成果を学術論文として刊行した。このほか集落・墓制・物質文化に関わる総合的な調査研究を実施し、その成果をまとめて単著として刊行した。研究課題(2)では、科研費・学術変革領域研究(A)「土器を掘る：22世紀型考古学資料の構築と社会実装をめざした技術開発型研究」(2020～2024年度)の研究分担者として、東日本における栽培植物出現の年代と文化変容の時期を解明するプロジェクトを開始した。また、データが大幅に不足していた縄文時代前半期の年代測定と土器編年構築に取り組んだほか、縄文時代・文化に関する比較考古学的研究の成果を韓国・ソウル市で開催された国際シンポジウム(2021 *International Symposium on Seoul Amsadong Site*)で発表した。研究課題(3)では、オセアニアの新石器時代に相当するラピタ文化期の解明に取り組んだほか、環日本海地域に伝承されている丸木船・準構造船に関する民族考古学的研究を実施し、前近代における操船・漁撈・建造技術の解明に取り組んだ。

d 主要業績

(1) 著書

単著、根岸洋、『東北地方北部における縄文／弥生移行期論』、雄山閣、2020.7

共編著、熊谷嘉隆・成澤徳子・秋葉丈志・豊田哲也・根岸洋、『人口減少・超高齢社会と外国人の包摂—外国人労働者・日本語教育・民俗文化の継承—』、明石書店、2022.3

(2) 論文

Chynoweth, M., Summerhayes, G., Ford, A., Negishi, Y., Lapita on Wari Island: What's the Problem?, *Asian Perspectives: the Journal of Archaeology for Asia and the Pacific*, 59(1), 100-116 頁、2020.4

根岸洋・大上立朗、「東北地方における弥生前期・中期の碧玉製管玉」、『靱』、第10号記念号、159-163 頁、2021.3

根岸洋・大上立朗・太田圭・岡本洋、「宇鉄遺跡出土の碧玉製管玉に関する基礎的研究」、『青森県立郷土館研究紀要』、第45号、63-74頁、2021.3

佐藤宏之・根岸洋、「陸奥湾および男鹿半島における木造船を用いた漁撈活動に関する民族考古学的研究」、『東京大学考古学研究室研究紀要』、第34号、73-84頁、2021.3

根岸洋、「地下遺構と世界遺産」、『月刊文化財』、698、39-44頁、2021.11

根岸洋・國木田大・小林謙一、「鏝田遺跡出土土器群の年代測定と炭素・窒素安定同位体比」、『秋田考古学』、64・65号、37-48頁、2021.12

根岸洋、「世界遺産を通してみる「縄文」」、『文化交流研究』、35、1-10頁、2022.3

根岸洋・夏木大吾・國木田大・池谷信之・佐藤宏之、「津軽海峡周辺域における縄文時代早期の測定年代と黒曜石産地推定」、『東京大学考古学研究室研究紀要』、35、1-24頁、2022.3

根岸洋、「東北地方における弥生前期・中期の紡錘車」、『弥生布の出現と展開—紡錘車と布目圧痕—』、37-39頁、2022.3

(3) 学会発表

国内、根岸洋・西村広経・隈元道厚・関根有一朗・國木田大、「上新城中学校遺跡における縄文晩期後半の溝跡（木柵跡）とその評価」、日本考古学協会第86回総会研究発表（紙上発表）、2020.6

国内、根岸洋、「外部人材がナマハゲになれるか？—現状と課題の整理—」、異文化間教育学会第41回大会公開シンポジウム『「ナマハゲ」と「なまはげ」—地域創生から考える異文化間教育—』、国際教養大学（オンライン開催）、2020.6.14

国内、根岸洋、「亀ヶ岡社会の変容」、第9回青森県考古学会村越潔賞受賞記念講演、2021.6.26

国際、Negishi, Y., 'Challenges of 'Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan': Cultures, OUV and Landscape. 2021 International Symposium on Seoul Amsadong Site.、岩寺洞先史遺跡博物館（オンライン）、2021.10.8

国内、根岸洋・成沢徳子、「伝統行事における包摂と継承」、シンポジウム「人口減少社会における包摂と継承—『最先端』秋田からの提言」、国際教養大学（オンライン）、2021.12.18

(4) 啓蒙

国内、根岸洋、「縄文を語る意義—世界遺産を巡る言説—」、第59回文化交流茶話会、2021.6.3

国内、根岸洋、「文化的多様性」を示した」（「縄文遺跡群」世界遺産登録識者談話）、『東奥日報』、2021.7.29

(5) 研究報告書

根岸洋（編）、『紀元前二千年紀前半の気候変動期における縄文晩期社会システムの変容プロセス』、国際教養大学アジア地域研究連携機構第5集、2021.3

(6) 総説・総合報告

根岸洋・上野祐依・熊谷嘉隆、「秋田の竿灯」と外部参加者に関する基礎的検討」、『国際教養大学アジア地域研究連携機構研究紀要』、11、111-120頁、2020.7

根岸洋、「5 秋田県」、『日本考古学年報』、72（2019年度版）、79-81頁、2020.11

村山めい子・相沢陽子・根岸洋、「秋田のクルーズ観光：秋田港の訪日クルーズ客の調査」、『国際教養大学アジア地域研究連携機構研究紀要』、12、1-34頁、2021.3

根岸洋・熊谷星・北畑有紀乃、「秋田竿燈まつりへの外国人の参加」、『国際教養大学アジア地域研究連携機構研究紀要』、12、63-72頁、2021.3

根岸洋、「弥生時代—東北—」、『考古学ジャーナル』、755、43-44頁、2021.6

根岸洋・成沢徳子、「伝統行事における継承と包摂」、『国際教養大学アジア地域研究連携機構研究紀要』、14、29-36頁、2022.3

(7) 受賞

国内、根岸洋、第9回青森県考古学会村越潔賞、青森県考古学会、2021.6.26

(8) 翻訳

ジョン・モック（根岸洋訳）、「秋田竿燈まつりとの関わり—地域連携と異文化間コミュニケーション」、『人口減少・超高齢社会と外国人の包摂—外国人労働者・日本語教育・民俗文化の継承』、287-290頁、明石書店、2022.3

(9) 受託研究

日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」、「人口減少社会における包摂と継承—『最先端』秋田からの提言」、研究分担者、2018.10～2022.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

朝日カルチャーセンター横浜、「世界遺産と『北海道・北東北の縄文遺跡群』」、2021.8.27

日経カルチャーセミナー、「縄文—JOMON—を知る」、「世界から見た”Jomon”の特徴と価値」、2021.9.24

さんまる縄文学講座、「『縄文社会』とは何か—13,000年間に及ぶ狩猟・漁撈・採集社会—」、2021.11.13

(2) 行政

青森県教育委員会、三内丸山遺跡発掘調査委員会、委員、2017.5～

秋田市、秋田城跡歴史資料館協議会、委員、2017.4～2021.3

男鹿市教育委員会、史跡脇本城跡調査整備委員会、委員、2017.4～2021.3

北海道・青森県・秋田県・岩手県、縄文遺跡群世界遺産登録推進会議担当者会議 4 道県分科会作業 WG、外部委員、
2016.4～2021.3

秋田県・男鹿市・湯沢市・八峰町・大潟村、秋田県ジオパーク連絡協議会研究統括会、専門委員、2015.5～2021.3